

郵便
報知新聞
第百七号

武州足立郡下加茂官村の豊原白石嘉吉
 金平の多むと云ふと呼六年未連添て
 中時敷算せりかきぬねるぬ九ヶ崎村
 金子次郎の娘あて時打泊りて仕束
 手傳多じてあじさのつゝ夫嘉吉と認
 らる中とあじさの死に限りきく
 或日も追うて語り責めあはらる
 託入り以後思ひ前と哲思ひ道計
 へ思ひさし色ぬ物とらん又も目井まの世
 久きのハ益々急いで一日夫婦諸俱ま
 熱柿を食し機嫌よく語り戯色し
 さきの平生の妬み急発し柿刺し方とま
 の腰骨と刺さる鮮血出て止らぬ甲余
 日と経て外病ふに死ししりあはる
 徳政五年に處せんとし



大権
 限

彫工銀

公産堂

70
65
60
55
50
45
40
35
30
25